



自分大好き
友達大好き
ふるさと大好き

宮小の子

令和5年度 栗原市立宮野小学校
校長室だより No.2
2023/5/12
発行者 小松 英明

宮野小学校の子どもたちの体力・運動能力について

宮城県の子どもたちの体力・運動能力は、全国的に見るとかなり低くなっています。それに加え、新型コロナの影響が加わり、令和4年度の調査結果は、史上最低だったそうです。宮城県教育委員会は、その状況を打破すべく、体力・運動能力向上センターを設置し、コーディネーターが宮城県下全ての小中学校をまわって、アドバイスをすることとなりました。そのコーディネーターが、10日来校しました。その人は、3月まで築館中学校の校長先生だった高橋千春先生です。

千春先生から宮野小学校の体力・運動能力について県や全国との比較から分析結果を教えてくださいました。それによれば、宮野小学校の子どもたちの体力・運動能力は、ほぼ全ての種目で県平均を大きく上回り、全国平均をもほぼ上回る状態にあるとのことでした。県内では珍しい、県内トップクラスの状態であるとのことでした。種目によっては、大きく落ち込んでいる種目もあるが、これは測定方法の問題なのではないかとの指摘でした。その後、具体的に測定時に気をつけるべき点などについて教えてくださいました。

その後、千春先生とたくさん話したのは、「体力・運動能力」と「学力」との関係についてです。

学力と運動の絶対的な関係 アンデシュ・ハンセン「新版・一流の頭脳 運動脳」サンマーク出版

運動が子どもたちの基礎的な学力——いわゆる「読み・書き・計算」の力を伸ばすことがはっきりと立証された場所は、アメリカのアイビーリーグの名門大学ではなく、スウェーデン南部スコネ地方のブンケフロという町の小学校だった。

調査の対象となった2つの小学校では、時間割に体育が毎日組み入れられた。また比較のため通常どおり体育を週に2回行うクラスも設けられた。

体育の回数以外、条件は全て同じだった。居住区も学校も授業内容も、みんな同じだ。結果はどうだっただろうか。

まず、毎日体育の授業を受けた生徒は、週に2回の生徒よりも体育の成績がよかった。これは当たり前の結果だ。予想外だったのは、この生徒たちが特別の指導を受けたわけでもないのに、算数や国語、英語でもよい成績を取ったことである。しかも、その効果は何年も続いた。

ただ体育の授業を増やただけで、生徒のほとんどが優秀な成績で学校を卒業したのである。また、この効果は、男子生徒に目立って現れた。学校の席はだいたい女子が男子を上回るものだが、体育が毎日行われたクラスでは、男女差は全く見られなかった。このようなめざましい結果をもたらした学習メソッドはそれまでなかった。

体力のある子どもは、脳の海馬が大きいことが分かっています。海馬は、記憶に関係する部位です。学習とは、別の言い方をすれば、「意図的な記憶の創出」とも言えます。身体を鍛えることで学力の向上が期待できるのです。宮野小学校では、昨年度から先生方に運動と脳の関係についてお話してきました。お話朝会でも取り上げて子どもたちにも話したことがありました。

宮野小学校の子どもたちは、よく遊んで、よく学びます。それは、つながっているんだなあ。ということ千春先生と話しながら改めて感じることができました。宮小の子、これからもたくさん遊び、運動し、たくさん学んでいってほしいと思います。



みんなに知らせたい

今日の宮小っ子



ゴミ拾いの時の話

11 日朝から春の交通安全運動が始まりました。交通指導隊や警察の方々、ボランティア会の皆さんが交通指導をしてくださっています。小職もいつものように通学路をまわりました。

小職は、交通指導をするときにゴミを拾いながら通学路を歩くことがあります。それは、去年の出来事がきっかけになっています。交通指導の帰り道、1年生の女の子と一緒に学校に向かっていました。話をしながら歩いていたのですが、その女の子が急に「ペットボトル」と言いました。指さした方を見ると、土のついた汚れたペットボトルが潰れて落ちていました。「拾わなくちゃ」と思いましたが、その汚れ方を見て素手で触るのを躊躇してしまい、「ああ、ペットボトルが落ちているね。」というのが精一杯でした。自分自身が情けなかったです。翌日、ゴミ袋と火ばさみをもって、ゴミを拾いながら交通指導をしました。もう前日のような情けない思いをすることなく、かえって気持ちがよくなりました。それ以来、交通指導でゴミ拾いをしながら通学路を歩くようになったのです。

今朝は久しぶりの街頭指導です。天気もよいので、ゴミ拾いセットをもって、通学路を歩きました。ゴミを拾いながら歩いていると留場の集団がやってきました。「おはようございます!」「おはようございます!」「おはようございます!」遠くからとっても大きな元気な声で挨拶してくれます。こっちからも大きな声で「おはようございます!」と返しました。「なんと気持ちのよい挨拶の交換だなあ。」等と喜んでニヤニヤしてしまいました。その後も何人かが通り過ぎ、元気な挨拶をしてくれます。

4年生女子が歩いてきました。「おはようございます。」こちらから声をかけました。すると「おはようございます。」そしてその後に「ありがとうございます。」と言ってくれたのです。いやあ、嬉しかったです。予想外の言葉に驚き、「いやあ、ありがとうなんて言ってもらって…。かえってそんなふうに言ってもらってありがとうね。」しどろもどろになってしまいました。「次もゴミを拾おう」と強く決心しました。

コンビニの交差点まで歩いて行きました。築館警察署の方がいました。この3月に仙台から築館署に来たそうです。その築館在住2ヵ月の警察の方が、「宮野の子どもたち、いいですね。元気だし、ハキハキしているし、笑顔だし。」と嬉しいことを言ってくれます。「2ヵ月で、宮小の良さが伝わった。」もう、嬉しくなって学校に戻ってきました。

ちょっとゆっくりゴミ拾いをしすぎました。学校に着いた時には、もう朝の活動が始まっていました。今日の朝は、縦割り活動です。子どもたちが廊下においてそれぞれの場所に移動しはじめていました。帰ってきた私を見て、1年生の女の子が「校長先生、ゴミ拾い、ご苦労様でした。」とすかさず言ってくれました。もう、今朝はいいことの連続です。嬉しくなって、「みんなに知らせたい今日の宮小っ子」を書き始めました。

宮小の子どもたち、やっぱりステキです。人間として必要な経験をしっかり積んでいるし、それを言葉や行動にすることができます。現在の子どもたちは、「非認知能力が欠けている」と言われています。「非認知能力」とは、「物事に対する考え方、取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼす能力」のことです。宮野小学校の子どもたちは、しっかり非認知能力が育っています。地域、家庭が、子どもたちの育ちにより影響を及ぼしてくれているのだと改めて思いました。

今日も宮小っ子は、とってもステキでした。

